

急角度です。掘り込み面は凹凸が少なく、ていねいに造られています。底面に堆積している土には砂れきが見られず、側壁には土留め用の杭や柵もないことから用水のような役割ではないようです。また水が流れるような高低差也没有ありません。路面（路肩から路肩まで）は幅 4.0m前後です。後世の改変が多く、盛土や硬化面は見つかりませんでした。溝からは多くはありませんが、主に珠洲焼が出土しています。14世紀～15世紀前半の道路と考えられます。



中世の用水（南から）

用水 調査区南の24Rグリッドから緩く蛇行しながら西の28Nグリッドに延びる溝があります。長さ60m、幅1.0m前後、深さ40cmを測ります。底面付近に砂質土が堆積しています。覆土から珠洲焼が出土することや土の特徴から中世の用水と考えています。切り合い関係から道路より新しいです。



井戸（南から）

井戸 10基近く見つかりました。260・270グリッド、25Lグリッド、23Rグリッド付近にまともります。規模は直径1.0m、深さ1～2m程度です。すべて素掘りの井戸です。堆積した土は、暗灰色または暗青灰色のシルト～粘土の特徴的な土で、いくつかの井戸からは珠洲焼が見つかりました。

ピット 260、270グリッド、24Rグリッド付近にやや多く集中します。規模が大きく深いものもありますが、柱穴列や掘立柱建物になっていません。

近世以降

掘立柱建物 調査区南の25Pグリッド周辺で見つかっています。桁行11間（19.8m）×梁行4間（7.2m）の大きな建物です。北東隅部に廂が付きまます。ほぼすべての柱根が残っており、2～3本まとめて打ち込まれている柱もあります。柱の残っている江戸時代の建物例として注目されます。



掘立柱建物（西から）

用水 調査区内では多くの用水が見つかりました。最も東側の用水は幅2.0～3.5m、深さ約50cmです。用水の両側には土留め用の杭が多数打ち込まれ、水位を高くするための堰も見つかっています。掘立柱建物より古く、明治28年の土地更正図に描かれていないことから江戸時代の用水と考えられます。